財務の概要　－2022 年度決算について－

1. 概要

2022 年度は、新病院棟建設や持続的な投資を可能とする財務基盤の強化に向けて、基本金組入前当年度収支差額 1,266 百万円を期初予算に計上しました。新型コロナウイルス感染症の教育・研究・診療への影響が継続する中で、業務運営の効率化や経費コントロール強化への一層の取組みを行ったものの、国際情勢の悪化や大幅な円安進行による資材価格や光熱水費の高騰に加えて、コロナ関連の公的支援の減少、多額の建物除却損の計上などもあり、基本金組入前当年度収支差額は前年度比 2,476 百万円減の 4,117 百万円と、黒字を確保したものの大幅な減益決算となりました。

2. 事業活動収支計算書（表 1・2 及びグラフ）

＜教育活動収支＞

① 教育活動収入

教育活動収入は 62,821 百万円となり、前年度比 475 百万円の増収となりました。

教育活動収入の大半を占める西宮本院の医療収入は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより病床稼働率が前年度と同水準であったものの、入院単価が上昇したことに加えて、外来患者数の増加、外来単価の上昇が寄与したため、前年度比 1,515 百万円増の 42,009 百万円となりました。

また、経常費等補助金は、大学統合の影響により経常費補助金が前年度比 427 百万円増加した一方で､感染症対策に係る補助金が前年度比 847 百万円減少したことから、前年度比 353 百万円減の 5,874 百万円となりました。

② 教育活動支出

教育活動支出は､57,860 百万円となり､前年度比 1,755 百万円の増加となりました。

人件費は、看護職員処遇改善手当やコロナ感染症対応の諸手当、退職金関連費用などの増加により、前年度比 162 百万円増の 24,086 百万円となりました。

一方、教育研究経費は、光熱水費、奨学費などが増加したものの、減価償却費、修繕費等が減少したため、前年度比 64 百万円減の 5,030 百万円となりました。

また、医療経費は、高額医薬品の使用増加に伴う薬品費の増加などにより、前年度比 1,777 百万円増の 27,296 百万円となりました。この結果、医療収支差額は前年度比 370 百万円の悪化となりました。

＜教育活動外収支＞

教育活動外収支は、有価証券の積み増し・入替えなどにより、受取利息・配当金収入が増加したため、前年度比 61 百万円増の 178 百万円となりました。

＜特別収支＞

開学 50 周年記念事業募金に係る施設設備寄付金やコロナ関連の施設設備補助金が減

少したことに加えて、9 号館・旧立体駐車場の解体による処分差額を 1,152 百万円計上したことにより、特別収支は前年度比 1,258 百万円減少し、▲1,022 百万円となりました。

3. 資金収支計算書（表 3）

資金収支については、収入（資産売却収入除く）が前年度比 448 百万円減少し、支出（資産運用支出除く）が前年度比 3,131 百万円増加したものの、資産運用支出が前年度比 5,717 百万円減少したため、翌年度繰越支払資金（現金預金）は、2021 年度末 13,834 百万円より 450 百万円増加し、14,284 百万円となりました。

4. 貸借対照表（表 4）

2022 年度末の貸借対照表の純資産（資産の部－負債の部）は、資産の部の大幅増加に対し、負債の部は微増にとどまったことから、前年度末比 4,117 百万円増の 85,598 百万円となりました。

資産の部は、建物・機器等の減価償却が進んだことに加えて、9 号館・旧立体駐車場の解体に伴う多額の建物除却が発生したものの、余剰資金の効率的な運用により有価証券等が増加した結果、4,288 百万円増加し 114,948 百万円となりました。

負債の部は、借入金、前受金が減少した一方で、退職給与引当金、未払金が増加した結果、172 百万円増加し 29,350 百万円となりました。

なお、2022 年度末の総保有資金残高は、前年度比 3,534 百万円増の 37,776 百万円となりました。

5. 主要財務比率の推移（表 5）

表 5 にて財務比率の推移を表しています。比率の意味、主な留意点等を表の次頁に記載しています。

6. キャッシュ・フローの推移（表 6）

「教育研究活動」「施設等整備活動」「財務活動」の活動区分ごとのキャッシュ・フローの推移を表しています。それぞれのキャッシュ・フロー計算書は、他の会計基準とほぼ同様の区分等の手法を採用して作成しています。

以上